



青年部 NEWS

「自治労組織内議員 岸まきこさんってどんな人？」学習会を開催!!

2023年11月21日（火）に本部青年部主催「岸まきこさんってどんな人？」学習会を開催しました。組織内議員である岸まきこさんの「人となり」や組合役員時代の事、そして組織内議員としてどのような活動をされているのかについて講演をいただきました。



動画でも
見れますよ！
（QRコードより）



「すごろく風」に振り返る！ 町役場職員や組合役員時代（動画5:16～）

男女差別が色濃く残る職場に違和感

岸まきこさんは高校卒業後、1994年に地元の栗沢町役場（現：岩見沢市）に就職しました。当時を振り返ると、『役場の職場環境は女性にとって出産後も「働き続ける」ということが困難な職場だった』といいます。どうしても職場は男性中心となり、男性と女性との間には見えない壁・格差があったとのこと。例えば採用は「競争試験の結果」とは言いながらも、どんなに女性の方が点数が良くても女性の退職がなければ採用されなかったり、女性の異動先は女性が現在いる職場に限られる等が当たり前だったといえます。

スタート

1994年

栗沢町役場
総務課庶務係



- ・当時は女性職員が辞めなければ女性の採用はなかった（競争試験なのに暗黙のルール）
- ・この頃は女性職員のみ制服が支給・着用義務
- ・女性職員は朝早く出勤し、課内全員の机を拭いたり、8時30分に職員へお茶出し、11時45分に職員のお茶碗を洗って12時にお茶出し、16時45分にまた茶碗洗い、さらに灰皿も洗う（当時は自席でたばこが吸えた）

組合役員になったきっかけは？

地本（支部）の女性部四役になったきっかけは、「自分の単組からだれか出さないといけない」という状況の中で「（よく考えずに）OKしたことがきっかけ」だとか！？（まじか）

割と今の組合役員のなり方と変わらなにかもしれませんね（笑）



栗沢町職から空知地本女性部四役に誰か選出しなければならず、深く考えずにOKする!?

- ・道本部主催の会議に参加するうちに、労働組合の必要性を知る
- ・近隣の自治体で女性職員に対するとんでもない差別事件が発生！道本部の助言や道内単組の抗議、顧問弁護士などの取り組みで白紙撤回させる
- ・前年踏襲や基本組合から降ろされた運動ではなく、みんなで考えた運動を模索する日々
（次世代育成行動計画の独自要求項目の作成、男女があたり前に担う行動計画の策定など）

2008.4～2011.3

地本専従

「お人よし」で役員になった岸さんが運動に前向きになった理由とは？

最初は「お人よし」（ご本人談）で役員になった彼女が、前向きに運動をするようになったきっかけは、**近隣自治体での差別事件**があげられるとのこと。職場内で結婚している女性に対して、首長が財政難を理由に退職を促し、夫側にも「妻を辞めさせないと管理職にさせない」という圧力をかけた事案が発生！自治労北海道本部や地方本部、顧問弁護士とも連携をしながら白紙撤回をさせ、職員の雇用や住民からの厳しい目線からも守った取り組みを紹介いただきました。そういった体験を通じて、「差別というものが（やはり）ありうる！」という衝撃と、**「自分は当事者じゃなかったけど、当局の在り方次第でいくらでも当事者になりうるのだ」という気づき**を得たこと、そして**「組合が動かなかったら泣き寝入りになっていた、動いたから勝ち取れた成果だ！」**ということが**今の運動の原点**になっているとか！

自治労本部専従ののちに議員として立候補（動画20：51～）



2013年夏に自治労本部の役員に着任（休職専従は2014年4月から）し、法対労安局長を務めたそうです。「過労死防止対策協議会」の労働者側の委員にもなり、公務員の長時間労働・過労死問題についての意見反映も行ってたとのこと。2017年に（岸議員の前任の）相原久美子議員が引退を表明、別の候補者を立てる必要がある中、（議論の末）最終的に岸さんにお話が来たとか。悩みはしたが「**やらなくてはならない**」と思い、**出馬を決意した**そうです。組合役員をなんとなく「お人よし」で受けた時とは違う力強い決意がそこにあったのだと思われます！

出馬を決意してからは全国800自治体、1300単組以上を回りながら、現場の仲間の声を聴いてまわったそうです。その時の**現場の仲間の思いや実態こそが、議員になってからの活動にとっても生きていく**とのこと。「**自治体の苦勞、大変さを代弁し、現場の問題を改善しないと住民、公共サービスは守れない**」という信念で闘ってくれています。

自治体現場で働いていたからこそその「現場目線・現場への理解」を持ち、さらには組合役員時代に培った「不条理へ声をあげる」という信念があるのが「岸まきこ」さんという方なのだと思います！カッコいいですね！



組織内議員の役割と政治に翻弄される現場（動画24：43～ 特に29：19～）

3. 政治に翻弄される現場

感染症対策
ワクチン接種
非課税世帯の臨時給付金
保健所の疲弊
インボイス制度
医療・介護の疲弊
二転三転する国の方針
通知文の多さ
マイナンバーカード
デジタル化
国が使いつらいシステム

▼都度、委員会質疑や党の会議等で意見反映に取り組んでいます！

例えば…2022年11月9日
【地方創生・デジタル特別委員会】
大臣所信に対する質疑。2021年当時の自治体が担っているワクチン接種のトラブルの一つであったVRS（ワクチン接種記録システム）をめぐる問題を河野大臣に反省と今後の留意を求めています。また、マイナンバーカードをめぐる諸課題を河野大臣とデジタル田園都市国家構想担当の岡田大臣に話し、結果、デンジ構想は一部改善されました。

【立憲民主党コロナ対策本部】感染症2類から5類引き下げにあたり、科学的根拠や段階的見直し、病院等の人事異動時期を避けるべきなど、厚労省へ要請しています。

「自治労の仲間の職場は政治に翻弄される職場である」ということを岸さんは強調していました。特にコロナ対策やマイナンバー等、国で決めたことを自治体が行うという構図があります。また、内容によっては業務に自治体の裁量がないことや、二転三転することなどが現場の疲弊につながっていることを問題視しています。背景として「省庁等が現場の事をわかっていない問題がある」と厚労省・デジタル庁のワクチン事例を具体例に説明をいただきました。

コロナ禍で自治体がワクチン接種業務で混乱する中、**組織内議員として「厚労省が現場の事をわかってなさすぎる！」と指摘をする**とともに、**省庁の縦割りで通知等の発出がバラバラなことにより自治体が混乱、疲弊していることを主張**。総務省に対しては、「総務省が自治体とのつながりが他の省庁よりもある（市町村と直接のつながりのある部署である）こと」を踏まえ、自治体の混乱を少しでも緩和し、スムーズな業務遂行ができるよう「**総務省が音頭をとって、自治体の実務者・職員も交えたチームを作る**」ように提案、実現させたことも報告がありました。「ほんのちょっぴりだけましになっただけかも」とご本人は言いますが、**組織内議員の役割とは、自治体現場の声を代弁し、国の不明確（生煮え）な政策等で自治体が著しく振り回され、これ以上疲弊しないようにする「防波堤の役割を果たすこと」だともいえそうです。**

5. さいごに

多くの仲間のご参加誠にありがとうございました。岸さんの熱意を感じられた仲間もいましたし、その後の質疑応答での誠実に答える姿に感動する仲間もいました。単組・県本部の青年部でも政治に関する取り組みをぜひ実践してみましよう！【次回は12月18日18時30分～20時 自治労組合員ならどなたでも参加可！（ID: 875 8461 4801 / パスコード: 433213）